

カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入者名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	教育学部
学科・専攻等名	総合文化教育課程
コース等名	国際文化コース

教育学部の教育目的（具体的に記述・箇条書き）		総合文化教育課程の教育目的（具体的に記述・		国際文化コースの教育目的					
学校教育および社会のさまざまな分野において教育の素養をもって貢献できる人材の養成を目的とする。		1. 国際化が急速に進展するなかで、国際社会		国際化が急速に進展するなかで、外国語コミュニケーション能力を身につけ、自分とは異なる文化・社会についての					
学科・研究科等のカリキュラム		総合文化教育課程のGraduation Policy(GP)		国際文化コースのGraduation Policy(GP) ( = GP達成のために、特に重要な事項、 = GP達成のために、重要					
授業科目名	授業科目の主題（箇条書き） （この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書きに記入する。）	授業科目の到達目標（箇条書き） （この授業科目の学習後に到達すべき最低限の（行動）目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書きに記入する。）	1. 自分と異なる文化・社会を多面的、総合的に考え、異文化理解や交流を積極的に進め、環境問題にも関心をもち、国際社会のさまざまな場面で活躍ができる。	2. 多様な文化と高度に進展する社会に対応して、地域文化や言語文化、芸術、メディアを通じた表現を学んで、教育や社会の幅広い場面で活動する素地を備えている。	1. 外国語コミュニケーション能力；英語はもちろん、その他のヨーロッパ、アジア、アフリカの言語を用いてコミュニケーションをすることができる。	2. 日本および海外の文化・社会について、多面的・総合的に理解することができる。	3. 地球環境問題や人間と自然の関係のあり方について、多面的・総合的に理解することができる。	4. 文献、インターネット、フィールドワークなどのさまざまな手段を用いて情報を収集することができる。	5. 収集した情報を整理・分析し、それをもとに自分の意見を考え、さらにそれを論文やレポート、もしくは口頭での確に発表することができる。
総合演習	人類に共通する課題や日本社会に関わる課題について学ぶ。	1. 人類や日本社会の課題を理解し、説明できる。 2. 上記の課題を分析・検討し、自分の意見を持つことができる。 3. 上記の課題についての自分の意見を相手に応じて分かりやすい形で伝えることができる。	1. 2. 3.		1. 2. 3.		1. 2. 3.	1. 2. 3.	
メディア情報教育	情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。情報リテラシーとは、一言で言えば、コンピュータを道具として利用・活用する能力のことである。Windows OS上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、ホームページ作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。	1. パソコンの基本的な操作方法を説明できる。 2. 基本的なアプリケーションを活用できる。 3. 氾濫する情報の中から、自分の判断で意味のあるものを選び出すことができる。 4. パソコンに関する情報をインターネットなどで収集できる。 5. 自分が専攻する分野の学習にパソコンを活用することに、意欲をもやすことができる。 6. ネットワークを守った行動ができる。 7. マルチメディアを活用した文書を作成できる。 8. データの集計や分析を行うことができる。 9. 情報の発信を行うことができる。 10. 明快で論理的な説明を行うことができる。	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10		3 4 5 8 9		3 4 5 8 9	1 2 3 4 6 7 8 9 10	
欧米言語文化入門I	本年度の欧米言語文化入門Iでは、主としてアメリカ合衆国を取り上げる。配布するテキストや授業内に見るビデオなどを通して、アメリカの歴史や、様々な文化的事象について考察していく。植民地時代、独立革命、西部開拓、フロンティアの消滅と外部への拡張、移民、20年代の繁栄、大恐慌時代、人種問題、公民権運動、女性の権利拡張、ベトナム戦争と若者の反抗、アジア系移民などのテーマを取り上げる。	1. アメリカの歴史的形成についての知識を得る。 2. 歴史的事象が今日のアメリカ社会の形成にどのように関わっているのか、繋がりを理解し、それについて整理して説明できる。 3. 参考文献、インターネットなどを調査し、アメリカについて貪欲に知見を拓げていく姿勢をもつ。 4. 発表、レポートなどで、論理的・客観的な報告あるいは記述ができる。	1 2 3 4		1 2		3	2 4	

<b>欧米言語文化入門</b>	欧米、特にドイツの言語と文化について、ドイツ語の原典を通して学ぶ。初歩的なドイツ語の文法指導と読解を指導する。	1. ドイツ語の初歩的読解ができるようになる。 2. 原典を通して、ドイツの思想を理解できるようになる。 3. ドイツ語やドイツの思想・文化への関心を高める。 4. 原典読解を通して、思想・文化理解への真摯な態度を学ぶ。 5. ドイツ語読解の力をつける。	1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			4	
<b>欧米言語文化入門</b>	現在経済のグローバル化が以前にも増して進行し、世界各国・地域の企業や人々と仕事（ビジネス）をせざるをえなくなっている。その際文化等の違いにより摩擦が生ずることもしばしばある。そこで日本と欧米のビジネスにおける慣行・慣習等の違いを知って、摩擦を最小限にする必要がある。本講義では、英文で、日本と欧米のビジネス慣行・慣習等の違いを学んで、摩擦の解消とビジネス英語の習得に寄与しようと思う。	1. ビジネス英語を習得する。 2. 日本と欧米を中心としたビジネス慣行・習慣等について説明できる。 3. 日本と欧米を中心としたビジネス慣行・習慣等の違いやその摩擦の解決策について自分の意見を述べるができる。 4. 日常生活の中で国際ビジネスに関わる問題に関心を持つ。	1 2 3 4		1 2 3 4				3
<b>欧米言語文化入門</b>	欧米言語文化入門IVでは、ヨーロッパを取り上げる。配布するテキストや授業内に見るビデオなどを通して、ヨーロッパの歴史や、様々な文化的事象について考察していく。本年度は、特にウクライナを中心として中東欧地域に焦点を当てる。	1. ヨーロッパの歴史的形成についての知識を得る。ヨーロッパの多様性についての理解を深めるとともに、ローマ文明、キリスト教といった共通の基盤をもつことも理解する。 2. 歴史的事象が今日のヨーロッパの形成にどのように関わっているのか、繋がりを理解し、それについて整理して説明できる。 3. 参考文献、インターネットなどを調査し、ヨーロッパについて貪欲に知見を拡げていく姿勢をもつ。 4. 発表、レポートなどで、論理的・客観的な報告あるいは記述ができる。	1 2 3 4		1 2		3	4	
<b>アジア・アフリカ言語文化入門I</b>	共通教育で学んだハンガールもしくは中国語をもとにして、これらの言語の語学力を増すための授業をおこなう。	1. ハンガールもしくは中国語の、会話や読み書き能力を獲得する	1.		1.				
<b>アジア・アフリカ</b>	アフリカで話されている言語についての基礎的な知識と、中部アフリカの地域共通語であるリンガラ語の初等文法について学ぶ。その後、リンガラ語を話している人たちの文化について学ぶ。	1. リンガラ語の初等文法を理解する。リンガラ語を話す人たちの文化を理解する。 2. アフリカの人々、社会、文化、言語に関心を持つ。 3. 初歩的なリンガラ語を話すことができる。	1. 2. 3.		1. 2. 3.	1. 2.			
<b>アジア・アフリカ</b>	共通教育で学んだハンガールもしくは中国語をもとにして、これらの言語の語学力を増すための授業をおこなう。	1. ハンガールもしくは中国語の、会話や読み書き能力を獲得する	1.		1.				
<b>異文化間交流演習I</b>	学生各自が選んだテーマについて、発表をおこない、教員はそれに対して、助言指導をおこなう。	1. 選んだテーマについての正確かつ基本的な知識・理解を得る。 2. 選んだテーマについての資料をさまざまな方法で適切に収集できる。 3. 収集した資料を適切に分析できる。 4. 収集した資料の分析結果を論理的かつ分かりやすく表現、説明することができる。	1 2 3 4		1	1	2	3 4	
<b>異文化間交流演習II</b>	学生各自が選んだテーマについて、発表をおこない、教員はそれに対して、助言指導をおこなう。	1. 選んだテーマについての正確かつ基本的な知識・理解を得る。 2. 選んだテーマについての資料をさまざまな方法で適切に収集できる。 3. 収集した資料を適切に分析できる。 4. 収集した資料の分析結果を論理的かつ分かりやすく表現、説明することができる。	1 2 3 4		1	1	2	3 4	

国際文化学基礎講義II	PowerPointを用いたプレゼンテーションの方法についての概説の後、各自が設定したテーマについて、プレゼンテーションを3回おこなう。そのうち1回は英語でおこなう。また、他人の発表に対して質問や意見を述べる。	1. 各自が設定したテーマについての情報を収集し、知識を得る。 2. 各自が設定したテーマについての情報を適切に収集することができる。 3. 各自が収集した資料を適切に分析できる。 4. 自らのプレゼンテーションで日本語と英語で自分の考えを述べるとともに、他人のプレゼンテーションについても積極的に意見を述べる。 5. PowerPointを用いて、論理的であり、かつわかりやすいプレゼンテーションの技術を身につける。	1 2 3 4 5	4	1	1	2	3 4 5
生物の世界	動物や植物の構造や機能に関する一般的な知識を習得すると共に、生物学の今日的なトピックス等についてもふれる。	1. 生物学の基礎知識を習得する。 2. 生物現象と生物学の知識の間の関係を理解する。	1. 2.			1. 2.		
生態学	環境と生物の関係を生物学の立場から学習する。	1. 生物学、特に生態学分野の基礎知識を身につける。 2. 環境問題などに現れる実際の現象と生態学的な知識がいかに結びついているかを理解する。	1. 2.			1. 2.		
生態学演習	実習や文献講読を通して動物や植物の構造や機能に関する一般的な知識や技能を習得すると共に、生態系の成り立ちや環境問題等を考える。	1. 植物や動物に関する生態学的な知識を習得する。生物の分布にかかわる知識は習得する。 2. 環境問題などに現れる実際の現象と生態学的な知識がいかに結びついているかを理解する。	1. 2.			1. 2.		
生態学野外実習	光市室積周辺で野外実習（臨海実習）を行う。標採集及び室内での動植物の観察、プランクトンの採集と観察、ウニの発生等の実験を行う。	1. 植物や動物に関する生態学的な知識を習得する。 2. 実際に生物に触れることを通して、環境問題により関心を持つ。	1. 2.			1. 2.		
人類学II	本講義では、人間と自然の関係を考えるにあたって、その根源となる自然観をいくつかの民族、社会について取り上げ、比較する。また、バナナという農作物を取り上げ、アジア、アフリカ各地での栽培、利用を比較することにより、人間と自然の関係の普遍性と多様性を見ていく。	1. 自然観および自然の利用の仕方と多様性を理解する。 2. 文化相対主義に基づいた思考、判断ができる。 3. 異文化に関心を持つ。	1 2 3		1 2 3	1		
世界の食糧生産構造	人間の歴史の中で主要な位置を占めてきた食べ物について、その生産の仕組みを説明する。	1. 主要農産物の生産について説明できる。 2. 自然環境と農環境の関係を説明できる。 3. 日常の食生活について関心を持つ。	1 2 3		1 3	1 2 3		
農業文化論	世界各地の農業地帯に永い間営まれてきた歴史の上に作られた農法や文化そして暮らしのあることを説明する。	1. 世界の農業地帯を説明できる。 2. 農業文化の多様性を説明できる。 3. 身近な農業文化に関心を持つ。	1 2 3		1 2 3	1 2 3		
農業演習	農山村に存在する多面的機能（自然の物質的循環機能）を説明する。	1. 農山村に存在する自然の物質的循環機能を説明できる。 2. 生物の多様性確保について説明できる。 3. 身近な自然環境の保全について関心をもつ。	1 2 3			1 2 3		
国際文化学基礎講義I	PowerPointを用いたプレゼンテーションの方法についての概説の後、各自が設定したテーマについて、プレゼンテーションを3回おこなう。そのうち1回は英語でおこなう。また、他人の発表に対して質問や意見を述べる。	1. 各自が設定したテーマについての情報を収集し、知識を得る。 2. 各自が設定したテーマについての情報を適切に収集することができる。 3. 各自が収集した資料を適切に分析できる。 4. 自らのプレゼンテーションで日本語と英語で自分の考えを述べるとともに、他人のプレゼンテーションについても積極的に意見を述べる。 5. PowerPointを用いて、論理的であり、かつわかりやすいプレゼンテーションの技術を身につける。	1 2 3 4 5	4	1	1	2	3 4 5

アジア文化論 I	中国、韓国、東南アジアなどの地域の文化、社会、経済について学ぶ。	1. アジア地域の文化、社会、経済についての基本的な理解を得る。 2. アジア地域に関心を持つ。	1 2				1 2			
アジア文化論 II	アジア地域の宗教、思想、倫理、哲学について学ぶ。	1. アジア地域の宗教、思想、倫理、哲学についての基本的な理解を得る。 2. アジア地域に関心を持つ。	1 2				1 2			
ヨーロッパ文化論 I	ヨーロッパの経済、社会、メディアなどについて学ぶ。	1. ヨーロッパ地域の経済、社会、メディアなどについての基本的な理解を得る。 2. ヨーロッパ地域に関心を持つ。	1 2				1 2			
ヨーロッパ文化論 II	ヨーロッパ文化の根本問題を主にニーチェの思想によって明らかにする。	1. ヨーロッパ文化の基本的思想的理解を得る。 2. ヨーロッパ文化について考え、判断する力を養う。 3. ヨーロッパ文化の基礎的思想的理解への関心を持つ。 4. ヨーロッパ文化の真摯な理解の態度を養う。 5. ヨーロッパ文化の理解を自分の言葉で表現する力を養うこと。	1 2 3 4 5				1 2 3 4 5		5	
地理学 I	The focus of this course is on the ways cultures and society vary and function spatially. Students describe and interpret spatial variations in culture, recognize cultural similarities and differences resulting from a complex of factors.	1. To understand and compare cultures around the world 2. To learn how to explain factors that create or influence cultures. To discuss cultural differences 3. To discuss the processes of cultural change and disappearance of cultural traits. 4. To develop an understanding and tolerance to cultural differences. 5. To learn to communicate with people from other cultures and discuss problems in English. To practice public speaking and presentation skills in English. 6. To do research on a specific problem concerning Cultural Geography.	1 2 3 4 5 6		5		1 2 3 4 6		6	5 6
地理学 II	This course offers the students a geographic perspective of the environment and its problems. It is shaped around the idea of the Earth as home of humankind. Global environments are discussed, the focus being on how environments influence the creation, development and disappearance of cultures.	1. To understand the role of nature for the formation of cultures 2. To learn how to explain the environmental impact in the formation of culture traits. 3. To discuss and explain the processes of culture-environment interaction 4. To develop understanding to environmental problems from cultural perspective. 5. To learn to communicate with people from other cultures on environmental problems and convey opinions in English. 6. To do research on cultural/environmental problems.	1 2 3 4 5 6		5		1 2 3 4 6	1 2 3 4 6	6	5 6

地誌学	This course examines issues of global importance such as development, demographic change, urbanization and migration, and international conflict. Offers knowledge on population, environment, economies and cultures of major world regions.	1. To understand the global regional differentiation 2. To learn how to explain factors that create global regions and discuss environmental, economic, political, cultural issues concerning these regions. 3. To discuss processes of development in the world regions. 4. To develop understanding and tolerance to problems and differences between and within regions. 5. To learn to communicate with people from different parts of the world and discuss international problems in English. To practice public speaking and presentation skills in English. 6. To do research on a specific problem concerning Regional Geography.	1 2 3 4 5 6		5	1 2 3 4 6	1 2 3	6	5 6
イスラーム研究	イスラーム教とその文化、経済、社会、法、政治的仕組み、イスラーム建築、美術、音楽の全般的な紹介をします。世界中の様々なイスラーム国家のいくつかを例に取り上げてこれらを例証します。	1. モスLEM(イスラーム教徒)の信条、イスラーム教の歴史、そのインパクト、イスラーム社会の社会・経済・政治の仕組み、モスLEMの国々で開花したイスラーム文明、文学、建築、音楽等について深く理解することができる。 2. 真のイスラーム教とメディアで取り上げられ、いくつかのモスLEM国で実践されているイスラームとの違いを区別することができる。	1 2			1 2			
イスラーム研究演習	クラーンで言及されているイブラヒーム、ムーサ、イーサ等の預言者の生涯について学ぶ。モスLEMの精神性を理解するためにスフィーの物語を読み学ぶ。	1. モスLEMの世界観を理解する。 2. スフィーの物語を通してモスLEMの精神性を理解する。 3. ユダヤ、キリスト、モスLEMの文化的遺産を理解する。	1 2 3			1 2 3			
経済学	一国の経済（GDP）は企業部門、政府部門、輸出部門と家計部門の4部門から成り立っているが、通常問題にされるのは、政府部門、企業部門と輸出部門で、家計部門はあまり問題にされていない。しかしGDPの3分の2は家計部門が占めているので、これを抜きにしては経済は語れない。したがって今年度は一国の経済、特に日本経済を家計視点より勉強していくことにする。	1. 家計視点より一国の経済の仕組みとそれにかかわる経済理論を説明できる。 2. 家計と一国経済の相互関係とその解決策について自分の意見を述べることができる。 3. 日常生活の中で経済に関わる問題に関心を持つ。	1 2 3			1 2 3			2
国際経済学	言い古された言葉ですが、国際経済への興味は「国際人」への第一歩です。そこで国際人への第一歩を踏み出すことが出来るように、国際経済の基礎理論・知識を学ぶことにします。	1. さまざまな国際経済問題の状況・背景について、欧州連合の視点より説明できる。 2. 国際経済問題の相互関係やその解決策について自分の意見を述べるができる。 3. 日常生活の中で国際経済に関わる問題に関心を持つ。	1 2 3			1 2 3			2
比較宗教学	東西の宗教（主に仏教とイスラーム）を比較することによって、「宗教とは何か」ということを明らかにする。	1. 仏教とイスラームの教えについての基礎的知識を得ること。 2. 宗教に対する正しい思考・判断力を得ること。 3. 宗教に対する関心を深めること。 4. 人生に対する真摯な態度を得ること。	1 2 3 4			1 2 3 4			

人類学I	文化人類学における異文化理解に対する考え方を学ぶ。具体的には、アフリカ、ヨーロッパ、近現代の日本における家族、親子関係、結婚、性などを取り上げる。	1. 文化人類学の基本的概念、特に文化相対主義を理解する。 2. 自文化中心主義ではなく文化相対主義に基づいて異文化を判断できるようになる。 3. 異文化に関心を持つ。 4. 異文化、特にアフリカなどの人たちの文化に対して偏見を持たずに接することができるようになる。	1 2 3 4				1 2 3 4		
アフリカ研究演習	この授業は二つの部分から成り立っている。第一は、アフリカに関する統計データをExcelで分析し、アフリカにおけるさまざまな問題（教育、人口、衛生、保健、ジェンダー）について考える。第二に、各々の学生がアフリカの国もしくは地域、またはアフリカを取り巻く問題（エイズ、環境問題、内戦、教育問題など）を選んで、それについて調べPowerPointを用いて発表をおこなう。	1. アフリカの統計的な資料の分析によって、アフリカの現状、特にアフリカが抱えているさまざまな問題を理解する。また、アフリカの一カ国について詳しい知識を持つ。 2. アフリカの現状について統計的資料に基づき客観的に判断できる。 3. アフリカに関心を持つ。 4. エクセルによる統計資料の分析とパワーポイントによるプレゼンテーションができるようになる。	1 2 3 4			1 2	1	1	4
東欧・ロシア地域研究	Eastern Europe: environment, history, economic and political development. Special focus on the cultural differences. More attention is devoted to Russia as a big and influential country, with its historical and current influence in this region. Current economic and political problems.	1. To understand East Europa as a specific economic and cultural region and compare it with other regions in the world. 2. To learn how to explain factors that create this specific region. To learn the differences between two major political-economic systems: socialism and capitalism. 3. To discuss processes of political and economic change of societies, using the knowledge about Eastern Europe. 4. To develop an understanding to the cultural differences in this region. 5. To learn to express their ideas and attitudes upon facts and problems relating to this part of the world. To practice public speaking and presentation skills in English. 6. To do reaserch on a specific problem relating to this part of the world.	1 2 3 4 5 6		5		1 2 3 4 5 6	6	5 6
日本史	日本史を通史的に概観する。いわゆる「日本人」がどこからやってきたかを見ることから始め、古代、中世、近世にかけての時代史の展開を概観してゆく。そのさい、ふつうに働き、暮らす人々の視線から当該の時代の特徴を考えることに努めたい。また教科書叙述にも注意し、そこでの説明の根拠を史料・データ類に即して検討することも、あわせて進める。	1. 歴史を現代とのかかわりにおいて把握することができる。 2. 資料に即して歴史的事実に則って考察するという視点・能力を身につける。	1. 2.			1. 2.			
外国史	キリスト教の浸透を経験したヨーロッパ社会とそうでない日本社会に、人間関係のあり方のレベルでどのような差異が形成されてきたのか、それが現在の我々の考え方・行動をどう特徴づけているのかを歴史学的に考察する。	1. ヨーロッパ社会の特徴をキリスト教との関係を中心として歴史的に理解できる。 2. 講義内容に関し、自分なりに論評することができる。 3. 史料の読解、仮説の構築、概念の吟味等に意欲的に取り組むことができる。	1 2 3			1 2 3	3		2
日本国憲法	国の根本法である憲法の歴史的背景をおさえた上で、現在の日本における憲法状況を考察する。	1. 憲法の歴史的背景と現状を理解する。 2. 憲法問題を身近な問題として考える。	1. 2.			1. 2.			
現代法（国際法を含む。）	現代日本における法的問題を、特に情報化社会の観点から考察する。	1. 情報化社会におけるさまざまな問題を、法学的思考によって捉えられる。	1.			1			

国際文化学演習 I	卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。	1. 各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。 2. 各自の設定したテーマに関して、適切な資料を収集することができる。 3. 収集した資料を分析し、それに基づいて自分の考えを形成することができる。 4. 研究結果に基づいて、論理的かつわかりやすい発表の仕方と論文の書き方を修得する。	1 2 3 4		2	1	1	2	3 4
国際文化学演習 II	国際文化学演習 I に引き続き、卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。	1. 各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。 2. 各自の設定したテーマに関して、適切な資料を収集することができる。 3. 収集した資料を分析し、それに基づいて自分の考えを形成することができる。 4. 研究結果に基づいて、論理的かつわかりやすい発表の仕方と論文の書き方を修得する。	1 2 3 4		2	1	1	2	3 4
国際文化学演習 III	国際文化学演習 I, II に引き続き、卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。	1. 各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。 2. 各自の設定したテーマに関して、適切な資料を収集することができる。 3. 収集した資料を分析し、それに基づいて自分の考えを形成することができる。 4. 研究結果に基づいて、論理的かつわかりやすい発表の仕方と論文の書き方を修得する。	1 2 3 4		2	1	1	2	3 4
国際文化学演習 IV	国際文化学演習 I, II, III に引き続き、卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。	1. 各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。 2. 各自の設定したテーマに関して、適切な資料を収集することができる。 3. 収集した資料を分析し、それに基づいて自分の考えを形成することができる。 4. 研究結果に基づいて、論理的かつわかりやすい発表の仕方と論文の書き方を修得する。	1 2 3 4		2	1	1	2	3 4
卒業研究	卒業論文の作成指導。各学生のテーマに応じて、資料収集の方法や具体的な論文の書き方などを指導する。	1. 各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。 2. 各自の設定したテーマに関して、適切な資料を収集することができる。 3. 収集した資料を分析し、それに基づいて自分の考えを形成することができる。 4. 研究結果に基づいて、論理的かつわかりやすい発表の仕方と論文の書き方を修得する。	1 2 3 4		2	1	1	2	3 4
G P 項目別到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）									
総合的 G P 到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）									